

2025年度(令和7年度)の取り組み状況

【活動報告】

- ① マロニエBIMコンペ2025 in 徳島の開催
- ② BIM GATEのこれまでの運用と改善
- ③ 教育・普及に関する取り組み



2025年(令和7年)12月24日 第15回建築BIM推進会議
日本建築士事務所協会連合会/BIMと情報環境WG

画像:会誌「日事連」11月号掲載記事抜粋
<https://www.njr.or.jp/aboutus/magazine/>
(詳細はお問い合わせください)

①マロニエBIMコンペ2025 in 徳島の開催 一経過

2013年、栃木県建築士事務所協会から始まったマロニエBIMコンペティションは毎年進化を重ねながら、全国各地で開催することで、**日本全域のBIMの普及・促進に努めてきた**。全国的に継続して応募があり、学生や若手技術者の育成に一定の役割を果たしている。

開催地での地元参加数には年ごとのばらつきがあり、安定的に増加傾向しているとは言えない。今後は地域の産官学各方面との連携や周知の方法を見直し、**地方におけるBIM活用の実質的な広がりを目指す**。

■マロニエBIMコンペ2025 in 徳島 審査結果一覧

賞	作品名	グループ名・所属
国土交通大臣賞	円環する風景	OnionsIII(熊本大学)
優秀賞(日連会長賞)	結び目	IML.pro(工学院大学)
優秀賞(審査委員長賞)	ハッケンが繋ぐ日常と非日常のサイクル	安井建築設計事務所 大阪事務所(大阪会)
ひょうたん島賞	脱炭素と共生する水都徳島 フリンジパーキングが創る ウォーカブルな中心市街地	清水建設
奨励賞	水辺にほどける日常	大和リース 技術DX推進室(大和リース(株))
〃	Pier	ふらっと5(宇都宮大学)
〃	みなもとくしま	本澤設計(栃木会)
〃	Re:LOOP	Neo 宝島(徳島大学)

■マロニエBIMコンペ参加者推移(2021年～2025年)

単位：人

	2021	2022	2023	2024	2025
エントリー数	45	61	82	75	39
提出作品	30	32	34	24	26
学生	21	16	19	18	20
社会人	9	16	15	6	6
地元参加数	22	5	15	3	2

■開催地一覧

開催年	開催地	主管会(一部主催)
2020以前	栃木会	(一社)栃木会建築士事務所協会(※)
2021	熊本県	(一社)福岡県建築士事務所協会
2022	宮城県	(一社)宮城県建築士事務所協会
2023	大阪府	(一社)大阪府建築士事務所協会
2024	神奈川県	(一社)神奈川県建築士事務所協会
2025	徳島県	(一社)徳島県建築士事務所協会

※2020年以前は栃木会主催で開催。2021年度は国庫補助事業にて開催

①マロニエBIMコンペ2025 in 徳島の開催 一成果

- ・ 主管会：（一社）徳島県建築士事務所協会
- ・ テーマ：「水都徳島の中心市街地で考える脱炭素社会」
ーひょうたん島周辺のこれからー
→県と市が連携して進めるまちづくりの動きを背景に、これからの都市空間のあり方をBIMの特徴を活かした提案を求める。
- ・ 対象敷地：徳島市内／通称ひょうたん島およびその周辺
- ・ 開催期間：2025年9月-11月 公開審査日：2025年11月15日
- ・ 提案では、環境シミュレーション、人流データ活用、パラメトリックデザインなど、BIMを用いた新たな都市空間の創出プロセスなどがあり、「3次元的発想による都市デザインの可能性」を見出すことができた。



画像：マロニエBIMコンペ2025 in 徳島
説明会動画画面

■審査委員会

役職	氏名	所属
審査委員長	山梨 知彦	建築家、株式会社日建設計 チーフデザインオフィサー
コーディネーター・審査委員	池田 靖史	東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 特任教授
審査委員	松野 秀生	国土交通省 住宅局 建築指導課 課長
〃	藍谷 鋼一郎	九州大学 大学院人間環境学研究院 D-Be部門 教授
〃	坪倉 菜水	一般社団法人島根県建築士会 会長
〃	高源 真由美	公益社団法人徳島県建築士会 副会長
〃	開 達也	有限会社開建築設計事務所 代表取締役
〃	上野 浩也	一般社団法人日本建築士事務所協会連合会 会長
〃	内野 輝明	一般社団法人徳島県建築士事務所協会 会長



画像：マロニエBIMコンペ2025 in 徳島
国土交通大臣賞「円環する風景」プレゼン画面

- ・国庫補助事業により2022年立上げ。建築BIM情報インフラとして、建築BIM普及・促進において重要な役割を果たしてきた。
- ・BIM関連情報を随時更新し、会誌「日事連」で連載中のBIM 活用事例を、掲載後一定期間を経てアーカイブ公開。
- ・一人あたりの閲覧ページ数は3年間で2割増加し、より専門的な情報を求める利用者の要望に対応。

- ・3年間で約16万回の閲覧を達成。建築BIM情報インフラとして、引き続き貢献していく。
- ・実務研修動画ページ:約1,000回閲覧／経営者向け動画ページ:約700回閲覧／意匠テンプレートページ:8,000回以上閲覧
- ・導入事例:全26件掲載

BIM導入ステップ（「知る→試す→使いこなす→連携」）／社内連携・実務移行支援情報／
BIMオブジェクト情報整理／ソフト別サポート情報整理 等



④教育・普及に関する取り組み

I 講習関係 来年度以降の研修の在り方については、学識者・実務者との連携可能性も含めて検討していく予定

■講習会実施履歴

開催年	名称	概要	対象
2021	日事連BIMセミナー (形式:会場)	BIM未導入・未活用の事務所向けて、BIMの利点と事例を紹介し、導入検討を促す。	建築士事務所の開設者・管理
2023	経営者向けセミナー【国庫補助】 (形式:会場+オンライン)	BIM導入の意義、業務フロー、先進事例、関連制度の解説。全国25会場で開催し、「BIM GATE」にコンテンツ掲載	BIM未導入の建築士事務所経営者
2023-2024	令和5・6年度BIM技法、技術研修【国庫補助】 (形式:オンライン)	BIM初級者向けの実践的研修(技法習得+建築プロジェクト作成)。教材の公開後、213件の申請あり (GLOOBE/Vectorworks:動画+テキスト Revit:テキストのみ)	建築士事務所所属の設計者

■国や関連団体からの情報提供

提供元	内容
国・BLCJ・ICBA	2026年4月開始予定のBIM図面審査に関して、図面審査の制度概要や方法、CDEの仕組みなどの講習会情報や講習動画掲載情報に関する情報提供。
士会連	「2025年版 BIMマネージャー・コーディネーター育成のためのセミナー+維持管理」セミナーの情報提供
その他	ベンダーなどのセミナー情報など

II 情報提供 会報「日事連」にてBIMの普及促進を目的とし、2カ月に1度の連載で、現在まで**通算39回**掲載。

■会誌「日事連」連載内容概要

区分	期間 (連載回数)	主なテーマと目的	重点的に取り上げた内容
I. BIM普及の土台構築	第1回～第11回 (2019.6 - 2021.3)	設計実務のデジタル化が社会全体のデジタル化とどのように連関するか、社会的役割を探索	<ul style="list-style-type: none"> ・マクロトレンドの可視化:国土交通省の官庁営繕事業におけるBIM適用拡大や、建築BIM推進会議の設置など、国の政策動向と建築分野のiConstruction拡大への活用方針を詳細に解説。 ・新時代の実務指針:建築確認申請とBIMの連携、設計・施工・維持管理をつなぐライフサイクルコンサルティングを含む標準ワークフロー(5パターン)をいち早く紹介。 ・業界連携の萌芽:専門工事業や建材メーカーのBIM化動向、日建連の施工BIMへの取り組みも紹介。
II. 実務への展開と中小事務所支援	第12回～継続中	実際の事例紹介。特に 中小事務所でもBIMに取り組めるような情報発信 を心掛ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・地方・中小事務所の成功事例を網羅:首都圏以外の地方や小規模設計事務所の具体的な導入経緯や効果、経営変革への活用実体を継続的に紹介。 ・多様な利用シーン:小規模な住宅や保育園から中規模建築物、さらにリノベーション/改修工事や海外プロジェクトでのBIM活用を紹介。 ・デジタル技術の複合的活用:BIMモデルと点群データの活用による改修設計の質向上や、VR/AR、リモートワークへの応用事例を詳述。